

2023年度 授業表彰 表彰者の紹介

西南女学院大学・西南女学院大学短期大学部では、教員の教育改善に対する意識を高め、本学の教育向上に資することを目的として、優れた教育成果をあげた教員に対して表彰を行っています。

今回、表彰された先生の授業で工夫されている点についてコメントをいただきましたのでご紹介いたします。

看護学科 専門科目部門

隅田 由加里先生

科目名「**診療関連技術論演習**」

本科目は学生が初めて実践する医療行為としての看護技術のため、

- ①基本的知識と技術の修得を目指し、技術別に講義・演習・振り返りの構成とし、
- ②専門職として患者の「安全」「安楽」「倫理的配慮」の思考ができる媒体や指導に加え、
- ③診療関連技術は自分一人だけで完結する技術ではなくチームメンバーと協力・連携し実践する技術であることを鑑み、6名前後の小チームを構成しアクティブラーニング技法の協同学習(ジグソー法)を取り入れた学生主体の演習に変更した。
- ④技術試験による技術習得から、自身の課題技術をメンバーに教授する方法に変更し、教員は個々の学生の技術習得のため自主練習のサポートと知識修得の支援を行った。
- ⑤知識修得においては既習の知識である形態機能学と関連できるよう留意した。
- ⑥上記の協同学習による練習と演習を通して、学生の思考力、表現力、責任感等の向上を図り、最終的に学修する楽しさを実感できるよう学生の努力の承認に務めた。

福祉学科 専門科目部門

西丸 月美先生

科目名「**養護概説**」

「養護概説」は養護教諭一種免許状を取得するために必要な科目として、2年生の後期に開講される科目です。2年生前期の科目「学校保健」で学んだことを踏まえ、養護教諭の専門性に基づいた養護活動の基本について学びます。授業では、私自身が養護教諭だった時のエピソードを交え、学校現場の実践に役立つような具体的な事例を示し、養護教諭の職務内容をわかりやすく解説し、養護教諭の職務内容への理解と専門性について理解が深まるように工夫をしました。さらに、授業の後半では、学生自身が養護教諭としてどのような保健室を経営していくかという夢が持てるような「私たちの理想の保健室を作ろう」とテーマを設け、理想の保健室のレイアウト・掲示物を作成し、グループ発表を通して、養護教諭の職務執務がより具体的にイメージできるようにしました。

学生の養護教諭になりたいという思いを大切に、学校現場で臨機応変に対応でき、実践力のある養護教諭として活躍してくれることを願いつつ、さらに授業内容を工夫していきたいと思っております。

栄養学科 専門科目部門

永田 純美先生

科目名「**給食経営管理実習Ⅰ**」

給食経営管理実習Ⅰは、給食対象者の栄養アセスメント、献立作成、食材料の発注、大量調理、評価という給食提供のための一連の流れを実践的に学びます。加えて、原価管理や人事管理、情報管理といった経営資源についての理解も必要となります。

このように、学生は大量の知識や技術を15回の実習の中で身につけなければならないため、まずは実習の目的や流れ、帳票の種類や提出期限などについて資料を用いて明確に提示し、実習の全体像を把握してもらうことで、学生が自主的に行動できる環境を作るようにしています。また、グループ活動が中心となる実習のため、グループ内で理解度に差が生じると実習について行けなくなることがあります。そのため、些細な事であっても積極的に質問できる雰囲気作りと、出た質問と回答は全学生に共有するようにしています。そして、助手の先生方と協力して学生への声掛けや指導を密に行い、できる限り全員の足並みが揃った状態で実習を進めていくように努めております。

観光文化学科 専門科目部門

角谷 尚久先生

科目名「**観光フィールドワーク**」

観光フィールドワークの授業は、2年生向けの発展的科目で、1年生で履修した「フィールドワーク入門」の内容をさらに深化させたものです。この授業では、1年生で習得した基礎的なフィールドワークの知識やスキルを活用しながら、まずチームビルディングを行い、次にフィールドワークの実施場所を選定します。その後、調査の具体的なテーマや内容を設定し、問題を明確に定義した上で、調査結果をもとに課題解決までのプロセスに取り組むという、段階的かつ実践的な学びを通じて、学生の課題発見力と問題解決力を向上させることを目標としています。授業では、フィールドワークを円滑に進めるために、事前調査や先行研究の確認を徹底して行うよう指導しています。具体的には、調査対象や地域に関する情報収集、過去の研究成果のレビュー、関連する理論やデータの整理などが含まれます。これにより、学生は現場に赴く前に十分な準備を整え、調査の質を高めることが求められています。さらに、フィールドワーク先の関係者とのアポイントメントや連絡調整といった、社会との直接的なやり取りを学生が自ら行うことで、コミュニケーション力や実務能力の向上も図っています。これらの経験を通じて、3年生から始まる就職活動に向けた実践的なスキルや基礎力を身につけることも、授業の重要な目的のひとつです。

英語学科 専門科目部門

西原 真弓先生

科目名「パラグラフ・ライティング」

この科目は、卒業論文作成に繋がる英語ライティングの基礎科目です。まとまりのある文章を論理的に構成する方法を、実践を通して主体的に学べるようにしています。学生が主体的に学ぶためには、教師が最初から必要以上の説明をせず、まず学生に取り組ませ、良い点・悪い点を含め現状を自分で認識する機会を与えます。そうすることで、学生はどう改善すればよいかを真剣に知りたくなり、本気の質問が多く出てきます。授業内でこれらの質問に答えるやり取りを通して、学生はより深い学びを得ることができると考えています。また、評価の観点をルーブリックにして早い段階から学生と共有するので、学生は毎回その観点を使得って自分で確認してから課題を提出します。これらの繰り返しにより、学生たちは書くことに少しずつ意欲的になり、自律的な学習者として自分の学びの向上を実感できるようになると期待しています。

保育科 専門科目部門

笠 修彰先生

科目名「子ども家庭福祉」

「子ども家庭福祉」は、卒業必修科目であると同時に、保育士資格取得に必要な科目として、1年前期に配置されています。開講時期が1年前期ということもあり、「なぜ保育者が福祉を学ぶ必要があるの?」、「保育と福祉って関係あるの?」といった疑問を持っている学生も少なくありません。そこで、授業では、保育者が福祉を学ぶ必要性や意義について繰り返し説明をしたり、保育現場における実践事例から福祉との関連を考える機会を設けるなどをして、学習への動機づけにつながるよう工夫しました。また、单元ごとに予習プリントを作成、配布することで学習に対する準備性の向上を図るとともに、单元ごとに小テストを実施し、学生個々の学習状況を把握できるようにも努めました。

他方、授業においては、教員から学生への「一方通行」にならないよう、アクティブラーニングの要素を取り入れた展開を心掛けました。具体的には、ランダムに学生を指名して問題を出し、回答を促すという方法です。また、その際には、「なぜそう思う?」「なぜそう考えた?」という具合にショート・ディベート形式にすることで、学生が多角的かつ批判的な視点を持ち、筋道立てて考えることができる力を養えるよう工夫しました。

総合人間科学部門

韓 京我先生

科目名「ハングル発展」

この度は私の講義「ハングル発展」を表彰していただき、誠にありがとうございます。学生の皆さんが積極的に学んでくださったおかげで、私も教育者としての喜びを感じることができました。韓国語教育は単なる言語学習を超えて、異なる文化や人々をつなぐ重要な架け橋だと信じています。本講義を通して、学生の皆さんが韓国語や文化への理解を深める手助けができたことを大変嬉しく思います。

ハングル入門から発展への授業において、学習者のレベルに合わせ、(1)スライドや映像などの視覚的な教材を活用する、(2)学習した表現が実際に使えるようにロールプレイや会話練習を取り入れる、(3)言語だけでなく韓国の文化や習慣も紹介することを工夫しています。

今後も韓国語教育に対する熱意を持ち続け、更に多くの学生の成長を支えられるよう努力してまいります。改めまして、このような光栄な機会をいただき感謝申し上げます。

一般教育科目部門

森 敦嗣先生

科目名「日本国憲法」

保育科「日本国憲法」担当講師の森と申します。この度は、私の担当した講義科目を表彰していただき、身に余る光栄と感じております。誠にありがとうございます。

私自身講義で特別なことを実践しているつもりはありませんが、講義の際には、その昔ある特別講座において勉強した「ガニエの9教授事象」の活用を念頭に置いております。これはアメリカの教育心理学者ロバート・M・ガニエが提唱した、人が新しい知識やスキルを習得する際の脳内のメカニズムを分析し、学習効果を上げるために必要な外的な働きかけを9つのプロセスに整理した学習支援モデルです。詳細は紙面の都合上省略いたしますが、9つのプロセスの内の①学習者の注意を喚起する、②授業の目標を伝える、④新しい事項を提示する、⑤学習の指針を与える、⑥練習の機会をつくる(グループワーク等)、⑨保持と転移を高める(復習の提示)、については、毎回の講義で実践することを心掛けています。

